

IDとパスワードに関するインターネット利用者の意識

インターネット上のサービス利用時に必要となるIDとパスワード。NRIではインターネット利用者に対して、IDとパスワードに関する意識調査を今年3月に行いました。

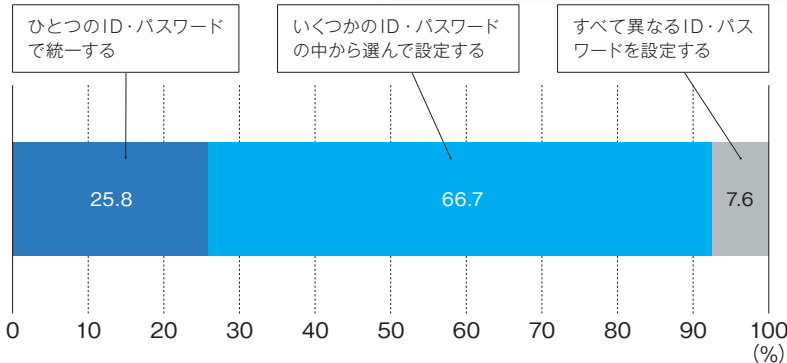
サイトへのログイン時などに、IDやパスワードを自分で設定する場合どのようにしているでしょうか。調べたところ、すでに自分が持つ「いくつかのID・パスワードから選んで設定する」人が66.7%、「ひとつに統一する」人の25.8%と合わせると、9割以上が少数のID・パスワードを複数のサイトで併用している結果となりました(上グラフ)。

記憶可能なID・パスワードは3以下という人が68%で、半数以上の人に忘れて困った経験がありました。その場合の対処方法として、誰にも覚えがある行動が並びました(中グラフ)。

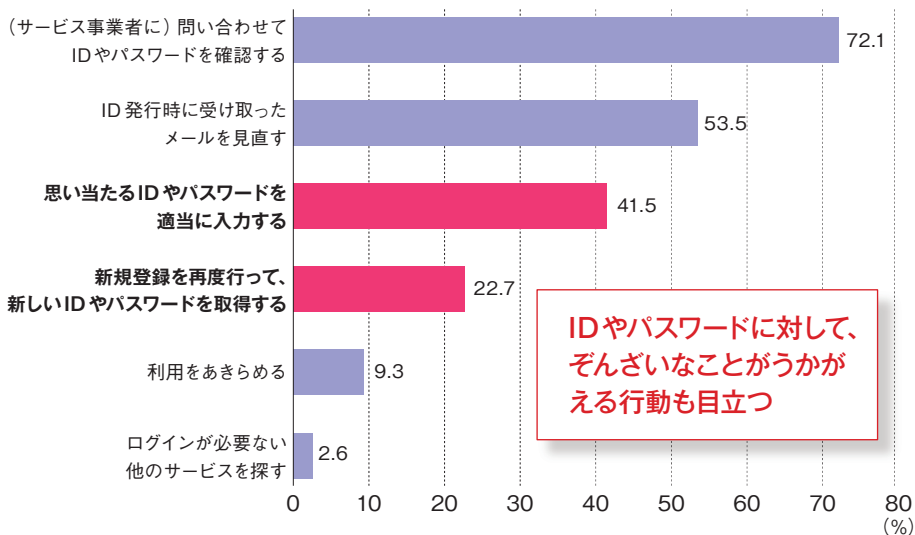
今後のID所有に対する考え方をきいたところ、全体的にはID・パスワードをこれ以上増やしたくないという本音が聞こえてくる結果となりました(下グラフ)。本誌特集でも述べたように、ID・パスワードをつなげていくサービスが、今後は望まれるのかもしれません。

ID・パスワードの設定方法
(N=1000)

9割以上が少数のID・パスワードを複数のサイトで併用している



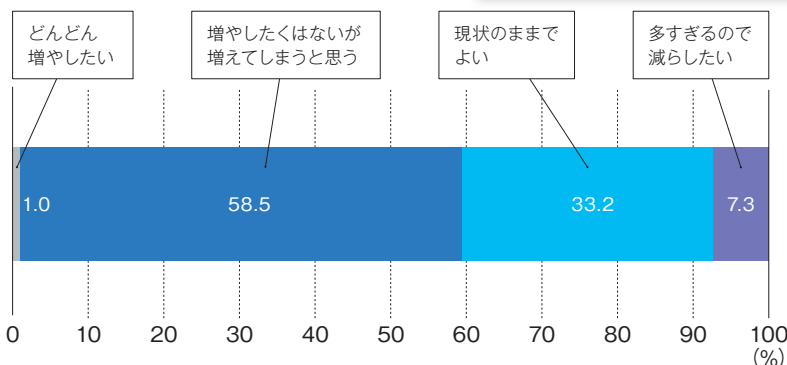
IDやパスワードを忘れた場合の行動 (N=1000 複数回答)



IDやパスワードに対して、ぞんざいなことがうかがえる行動も目立つ

今後のID所有に対する考え方
(N=1000)

「これ以上増やしたくない」というのが全体的な本音



調査概要) NRI「個人情報に関する調査」
調査時期=2009年3月13日~17日/方法=インターネットアンケート/対象=全国16歳以上の男女1000人